

## 平成22年11月 歌舞伎フォーラム公演「忠臣蔵」～大石妻子別れ～



「妻子別れ」の名場面



左からりく、主税、内蔵之助



主税(左)とお梅(右)

近松門左衛門 作「碁盤太平記」をもとにした作品で、「仮名手本忠臣蔵」に登場する人達が別の形で活躍します。

### 【あらすじ】

大石内蔵助が討ち入りに行くことを妻子(りくと主税)に告げるという涙なくしては見られないくどきたっぷりの名場面です。気性のしっかりとした内蔵之助の母や、吉良側の間者お梅、側近に置いていたが吉良側の間者で実際の正体は浅野家家臣・萱野三左衛門の息子勘平などが場面を興味深く、奥深いものにしていきます。内蔵之助は仇討ちの時期が来たと長男・主税とともに江戸へ旅立つ支度をする。一目母や祖母とあつて別れを告げたいと願う主税の願いを許さない内蔵之助。だが暗闇の中で、親子・夫婦はさぐりあつた手を握って最後の別れを惜しむのだった。

## 平成22年7月 かぶきはともだち公演「釣女」



「釣女」の名場面



上臈(左)と大名(右)

「釣女」は能・狂言から題材をとった「松羽目物(まつばめもの)」といわれるユーモア溢れる歌舞伎です。初めて歌舞伎を見る方の為の、面白く、肩の凝らない笑いに溢れた楽しい歌舞伎です。

### 【あらすじ】

独身の大名と太郎冠者が、夢のお告げにあつた釣り竿でそれぞれ妻を釣り上げ、大名はたいそう美しい娘(上臈)を吊り上げますが、太郎冠者はたいへん醜い醜女(しこめ)を吊り上げてしまうのでした...